

# 第 4 回

## 市立幼稚園の在り方検討会議

### 議 事 録

日 時：2019年8月27日（火）午後3時開会  
場 所：札幌市教育委員会 教育委員会会議室

## 1. 開 会

○事務局（野切幼児教育センター担当課長） 時間となりましたので、会を始めさせていただきます。

本日もお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

まず、配付資料について確認させていただきます。

お手元に、議事次第、座席表、資料1の「委員名簿」と資料2の「これまでの会議で出された意見」の4点の資料があると思いますが、不足はございませんか。

それでは、阿部議長、よろしく願いいたします。

## 2. 議 事

○阿部議長 いよいよ最後となりましたが、第4回の市立幼稚園の在り方検討会議を開催します。

今日の流れですが、次第にあるとおり、これまでの意見の振り返りを行った後に、1から4まである視点ごとに意見交換を行い、その後、検討会議を総括する時間を最後に設けたいと考えております。

総括の場では、委員の皆様、これまでの検討会議を振り返っていただき、札幌市の幼児教育の思いや考え、市立幼稚園に対する思いや考えを一人あたり、二、三分程度でお話しいただこうと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。

第2回と第3回の会議では、市立幼稚園の検討に当たっての四つの視点について御意見をいただきましたが、これまで出された意見について総括したものを事務局が作成しましたので、これから説明をいただきたいと思っております。

事務局からお願いします。

○事務局（野切幼児教育センター担当課長） 資料2の「これまでの会議で出されて出された意見」を御覧ください。

市立幼稚園の在り方に係る4つの視点ということで、これまで委員の皆様からいただいた御意見を視点ごとにまとめさせていただいたものとなります。

1枚めくっていただき、1ページ目の四つの視点を御覧ください。

これまでの会議において、第2回目に視点1と2、第3回目に視点3と4について御意見をいただいております。

今回、資料を作成するに当たり、委員からいただいた御発言について抜粋や要約をしてまとめさせていただいております。

また、複数の視点で類似の御意見をいただいたものもありましたので、分かりやすくするため、一つの視点にまとめて掲載するなどしております。

例えば、幼児教育支援員については、視点2と視点3の両方で御意見をいただきましたが、視点2にまとめたほうが分かりやすいと考え、視点2に掲載しています。

本日の会議では、この資料をもとに進めさせていただきますが、抜粋や要約をしておりますので、発言の趣旨が正確ではないという部分などがございましたら、後日、事務局の方へお知らせいただきたいと思います。

それでは、資料をもとに皆様からの御意見を振り返っていき、この後、補足したい点や新たな視点等についてさらに御意見をいただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、内容に入ってまいります、2ページ目を御覧ください。

視点1の時代に即した幼児教育の展開の1-①です。

この丸の部分が資料の中では網かけになっていた箇所ですが、子ども・子育て支援新制度の実施や、幼児教育の無償化により求められる質の高い幼児教育への対応ということで、下の括弧については、今回のまとめに当たりまして、趣旨がわかりやすくなるよう、小見出しといった意味合いでつけたものとなっております。

まず、市立幼稚園の機能や実践研究の推進についてということで、いただいた意見を要約して、説明させていただきます。

いただいた御意見ですが、「公立園の機能として研究の機能は外せないのではないか。」、「縦断的な研究や情報を集めながら発信することが必要である。」、「幼児教育センターには、市立幼稚園という実践の場があり、幼小の接続に関わる事業や研究・研修事業を行っている。」、「研究の質をより向上させるためにも、ニーズの把握が必要である。」、「市立幼稚園、幼児教育センターが中心となり、市内の幼児教育施設と連携をして、これからの無償化時代に必要とされる幼児教育の質について研究を進めていくことの重要性」が挙げられておりました。

次に、2ページの下の子立幼稚園の研究実践園としての役割や規模についてです。

「市立幼稚園の閉園ではなく、機能を向上させる取組が必要である。」、次のページに移り、「園児数が減ることによって子どもの育ちに必要な人との関わりが少なくなるのではないか。」、「非認知的能力の育ちにはある程度の集団規模が必要である。」、「市立幼稚園の数について、幾つかの園を集約するということが考えられるが、各幼稚園や区の実態なども勘案して慎重に判断すべき。」、「園の大小の規模に応じた良さと課題があり、小規模園であっても園外や地域の人との関わりの中で子どもを育てる研究も可能である。」、「教諭を育てる上で必要な園児数もある。」、「市立幼稚園は幼稚園の先生たちを育てていくとい

う観点から必要な園数を考えるべき。」など、市立幼稚園の園児数や規模について、研究実践との関わりや、園児や教師の育成という観点から御意見をいただきました。

次に、4ページです。

ニーズが高まっている長時間保育への対応については、「預かり保育の時間も遊びを通した教育・保育であり、計画的な実施が重要。」、「幼稚園教育の実践から生まれる確かな保育力を預かり保育の担当保育士と共有し、質を上げていくことが課題。」、「長時間保育は、幼稚園教育要領にも明記されており、市立幼稚園が先導し、研究実践を進めていくべき。」、「長時間保育でのよりよい環境や過ごし方をしっかりと考えることが大事。」など、長時間保育を単に推進するのではなく、質の向上に向け、市立幼稚園がよりよい長時間保育の実践研究を進めることが挙げられておりました。

続いて、5ページに行きまして、視点2の札幌市の幼児教育の質の向上です。

2-①の丸の幼児教育施設の人材育成、資質向上についてですが、「市立幼稚園の公開保育から学び、園に持ち帰って実践に生かしている。」、「幼児教育の質の向上のためには、教職員の資質の向上のため研修が重要であり、時代に即した研修が必要。」、「市立幼稚園の先生による出前講座のような現場での研修を希望するなど、長時間保育を行う施設が増える中、教職員の資質向上を図るため、研修の機会や方法、内容の充実が必要。」との御意見をいただきました。

次に、2-②の丸の幼児教育施設の支援体制の整備、幼児教育支援員による支援についてですが、「幼児教育支援員による訪問支援の対象施設を広げていくとよいのではないか。」、「支援員は、保護者にとって第三者として話を聞き、親身になってくれる存在として役立っており、この機能がもっと充実した方が良い。」、「支援を必要とする子どもの数が増加し、支援員が子どもの様子を見た後、関わり方について保育者にアドバイスする機会が持ちづらい状況がある。幼児教育支援員を増員し、支援を必要とする子どもの支援体制を充実する必要がある。」など、幼児教育支援員の果たしている役割を評価するとともに、今後の幼児教育の質の向上に向けた支援体制の充実について御意見をいただきました。

次に、7ページ、市立幼稚園教諭の確保や幼児教育支援員の育成についてですが、「幼児教育支援員による訪問支援や教育相談の機能を充実させ、支援員の質を更に向上してほしい。市立幼稚園教諭の採用が15年ぐらい行われておらず、幼児教育支援員が担う事業が継続できるか不安。」「市立幼稚園教諭の採用を再開するとともに、採用した先生が私立幼稚園とともに研修、研究を行うなど、教員の質の向上を図る仕組みが必要。」など、市立幼稚園教諭の採用の

必要性や幼児教育支援員を育成する仕組みづくりなどについて御意見をいただきました。

続いて、8ページ、視点3の特別支援教育の充実です。

3-①の丸の個々の幼児の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の充実についてです。

まず、「幼稚園における教育相談については、市立幼稚園で研鑽を積んだ保育者による教育相談であることが重要。」、「私立幼稚園の保護者が区の教育相談を受けた上で、幼児教育支援員が幼児の在籍する園と連携し、園生活の中で先生方の関わり方に生かすシステムが役立っている。これについては、保育園についても同様。」というような意見をいただいております。

このほかに、「保護者は、医療機関などで、発達の相談を受けることは構えてしまうが、市立幼稚園の中で教育相談ができることを伝えると行きやすいという思いがある。」「子どもの園生活を見ていて、保護者の気持ちを知っている幼児教育支援員が子どもと保護者を一体的に受けとめてくれるような相談体制がよい。」など、幼稚園という気楽に行きやすい環境での教育相談の良さと相談後の園との連携が子どもとの関わり方などに生かされていることについて御意見をいただきました。

次に9ページに参りまして、丸のところの障がいのある幼児とない幼児が共に遊び学ぶ機会の効果的な設定については、「市立幼稚園で行ってきたインクルーシブの環境が各幼児教育施設へ波及することを期待している。」、「幼児期から小学校において、みんなで生活しながら楽しい社会にしていくという体験が重要で、幼稚園はインクルーシブの一番大事な場面。支援を必要とする子どもは多くの園児と一緒にいることによって大きく成長する。」など、幼児教育施設での生活の場において、障がいの有無にかかわらず、共に遊び学ぶ機会の重要性が挙げられておりました。

次に、同じページの丸の特別支援教育に関わる研究成果の発信や研修機会の提供については、「市立幼稚園が行っている研修や研究成果の発信、共有は成果を上げている。」、「支援を必要とする幼児の担当者向けの研修は内容が充実している。」、「小学校に対しても園からサポートファイルさっぽろの効果を伝えるべき。」、「障がいに関わる専門的な研修について、回数や時間のほか、密度の高さも重要である。」、「幼児教育支援員を支えるスーパーバイザーがいると、問題の抱え込み防ぎ、資質の向上という部分にも寄与する。」、「札幌市で発行している『虎の巻シリーズ』を幼稚園にも配布してほしい。」など、特別支援教育に関わり、現在の研修についての評価とともに、内容や方法などのさらなる充実に向けた御意見をいただいております。

続きまして、11ページの視点4の幼保小連携の推進及び家庭教育支援の充実

です。

4-①の丸の幼児教育施設間及び小学校との相互理解の促進についてですが、まず、幼保小連携の推進体制については、「幼保小連携は、市立幼稚園が窓口になることで各区の連携が進んでおり、さらに幼児教育センターが全市を取りまとめているということが大きい。」、「幼保小連携を今後さらに充実していくために改善が必要である。」、「研修も短い時間で中身がなかなか深まらないので、さらに小さなブロックで研修できたらよいのではないか。」、「地域に根差した市立幼稚園が小学校との連携のモデルとなる取組を期待している。」、「いろいろな施設がしっかりと子どもの実態を把握して、支援体制、バックアップ体制をとることが大事。」、「幼稚園児の小学校への訪問というのは、次の世代にバトンタッチするという意味で大事な行事であり、地域全体で交流を活発にしていきたい。」など、市全体で幼保小連携を推進するため、市立幼稚園の役割として、区の窓口になることや、連携のモデルになることなどについて挙げられておりました。

続きまして、12ページの幼保小連携に関わる教職員体制については、「幼保小連携推進協議会によって顔が見える体制になり、連携を取りやすくなったが、今後もより連携を深めていくことが課題である。」、「学校による取組の差を少なくするような研修が必要。」、「協議会のメンバーとして学校に長く在籍する先生や管理職以外の先生なども参加する機会があればよい。」、「小学校と幼稚園の人事交流がもっと盛んに行われると良い。」など、協議会についての評価とともに、協議会や幼保小連携の充実に向け、参加メンバーや人事交流などについて御意見をいただきました。

同じく12ページの丸の幼児期と児童期の教育課程の接続の充実に向けた支援については、「幼保小の接続が子どもの姿にどう影響しているのか検証が必要。」、「教育課程の接続に関して、10の姿を切り口に、市立幼稚園がモデルとなって、幼児期の遊びの中での学びが小学校の学習につながるという検証を期待する。」、「幼児期に育む資質、能力や10の姿について、幼保小の交流を通して研修し、より深い理解のもと、就学する幼児の実態に即したスタートが重要。」、「地域の中心的な役割を担っている市立幼稚園は、幼保小のほか、大学や研究機関と結びつきやすく、効果を検証する研究も可能。」など、市立幼稚園における研究に一步進め、エビデンスを明らかにする効果検証を行うべきなどという御意見をいただきました。

続いて、13ページの4-②の丸、地域における幼児期の教育センターとしての子育ての支援の充実です。

まず、括弧の部分の幼児教育に関する理解や啓発についてですが、「保護者への幼児教育の理解や啓発に関しては、1園単位では難しいため、市立幼稚園

と幼児教育センターの機能を使って市全体に発信するべき。」、「子どもにとって良質な環境や過ごし方など、幼児教育の質の部分に関して、市立幼稚園と幼児教育センターが中心となって理解と啓発に努める必要がある。」、「家庭での育て方の支援は幼稚園の役割の一つであり、中核となって情報を発信する存在として市立幼稚園の役割は大きい。」など、子育ての支援はそれぞれの園でも行っておりますが、全市的に行ったり連携を図ったりするために、市立幼稚園の役割が重要であるという御意見をいただきました。

最後に、保護者に対する支援についてですが、「他者と話すことや他の子と接することでいろいろな発見があり、心に余裕ができるなど、保護者も楽しく育児をできるような環境が大切。」、「PTAの活動を通してたくさんの保護者と関わることや、小学校や中学校の情報を聞くことができ、楽しく子育てをすることができる。」、「送迎のときに幼稚園の先生と情報共有したり、玄関に掲示された写真から遊びの様子を知ったりするなど、日々の様子が分かり、安心感がある。」、「他の家庭や保護者の話を聞いて自分の家庭教育を見直したりするなど、保護者の社会性の向上においても幼児教育施設での生活の意義が大きい。」、「ポロップ広場にボランティアとして関わっているが、地域として園を通して保護者にも関わり、いろいろな話をしていきたい。」、「ポロップ広場は、子育ての情報を得るとともに、子どもを遊ばせながら気軽に教育相談ができる大切な場。」、「さっぽろっ子『学び』のススメをさらに普及、活用するとよい。」など、育児の悩みなどを軽減できる場の提供を市立幼稚園がしていく必要性や、「入園後にPTAなどで保護者同士の情報共有も有効であるということ、園の先生との情報共有も安心につながる。」などの御意見をいただきました。

長くなりましたが、私からの説明は以上となります。

この後、皆様から御意見をいただきたいと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

○阿部議長 ただいま、事務局から、まとめていただいたものを説明していただきました。

先ほど申しましたように、御意見等がある方は、視点ごとに手を挙げていただければと思っております。

まずは、視点1の時代に即した幼児教育の展開というところで御意見等はございませんか。

○三井委員 視点1の時代に即した幼児教育の展開ということで、市立幼稚園の機能や研究のことが具体的に書かれていると思います。

今までの課題に加えて、さらにどのようにすればいいのかということも書かれておりますが、10月から幼児教育の無償化が施行されることにより、各幼稚

園、認定こども園にも何らかの波及があることが予想されます。

こちらも加えて研究を深めていただければと思っております。

○阿部議長 ありがとうございます。

そのほかにございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○阿部議長 それでは、後で総括の時間もありますので、何かありましたらここでおっしゃっていただくこととし、先に進めさせていただきます。

視点2の幼児教育の質の向上という点について、いかがでしょうか。

先ほど、教職員の資質向上等について、これまでいただいた意見も説明いただきましたが、先生方の資質向上について、付け足す点はございませんか。

○丸谷委員 私がお話しした内容が、資料には十分網羅されていますが、再度、確認の意味も込めてお話をさせていただければと思います。

幼児教育支援員の重要性について、いろいろな議事の中で皆さんと共有できたのではないかと思っております。

これは、実際に保護者や子どもたちが困り感を持っているときに、幼稚園の中で、子どもたちがどのように生活を行っていくことで成長していくのかという点について、直接的なアドバイス、そして、市立幼稚園の中で十分に実践を重ねてこられた先生方の知見によるアドバイスをいただき、私立幼稚園が子どもたちに関わる上で大変参考になっています

そして、幼児教育支援員は、何より、保護者と連携をとっていく際にも大変心強いパートナーとして私立幼稚園をサポートしていただいていると思います。

これは、私立幼稚園のどの園の先生方も口々におっしゃることで、やっこの10年ぐらいの間で確立された事業ですし、充実してきているのも事実です。

そこにきて、今、市立幼稚園の在り方を検討する段階に入ったときに、この機能が無くなってしまったらどうなのだろうかということを想定すると、やはり、幼児教育の質の後退しか考えられません。

先ほど、視点1のときにはお話ししましたが、これから求められる幼児教育の質の向上という点に際して、今こそ、ここにしっかりと光を当てて、あるいは予算をつけて、札幌市としてどのように考えていくのかという一定の方向性をしっかり出さなければいけない時期に来ていると思います。

その点は、皆さんと一緒に十分議論ができたと思いますし、その必要性がまとめの中にもしっかり記載されておりますので、そこを踏まえた上でこれから検討に入っていただけたらと思っております。

○阿部議長 ありがとうございます。

○北本委員 視点2の幼児教育の質の向上という点について、市立幼稚園に身を置いた者として、小学校から異動してきた当初、保育はどのようなものか全

く分からず、先生方が毎週のように自分たちの保育を振り返って、一人一人の子どもの成長について職員室の中で語り合っているのを耳にしておりました。

そのような会話を聞いて、これも研修の一つなのだな、このようなところから市立幼稚園の中で教諭が育っていったのだなということをひしひしと感じておりました。

ベテランの先生が、転勤してきて間もない先生に対してアドバイスをしていたり、比較的若い先生にもアドバイスをしていたりということがあって、その内容についても非常に素晴らしいと感心していたことを思い出します。

私が幼稚園から離れ、もう4年経過しますが、幼児教育のノウハウの伝承や、保育における子どもの理解の仕方がきちんと受け継がれていくことを本当に切に願っていますし、それは、市立幼稚園の大切な宝物ではないかと思えます。

幼稚園の先生方は、その宝物に満足することなく、毎年、研究大会に参加したり、自園で公開保育をしたり、近隣の幼稚園とつながってお互いの保育を交流する研修会などを行ったりして、その宝に磨きをかけていたことを思い出し、これは、札幌市の幼児教育における財産でもあると思っています。

これからの人材育成、資質の向上について、私は市立幼稚園でのノウハウを少しは知っているものですから、いろいろなところで話させていただいております。

そのような研修をさらに深められる体制がこれからも必要ではないかと改めて感じました。

○阿部議長 ありがとうございます。

そのほか、視点2について何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○阿部議長 それでは、先に進めます。

視点3の特別市支援教育の充実について、御意見等はございませんか。

○水岡委員 ここにまとめられているとおり、保育園の立場からも幼児教育支援員の必要性を強く感じていた中で、私立幼稚園も認定こども園もそれぞれ必要性を感じているので、公立幼稚園として、幼児教育支援員の充実をより図っていただきたいと思えます。

そして、1区1園で運営するならば、幼児教育支援を増員し、札幌市内の支援を必要としている子どもたちを網羅しながら、関係機関との連携をより一層図れるようにしていただきたいと思っております。

○阿部議長 ありがとうございます。

特別支援に関わって、他に意見はありませんでしょうか。

○丸谷委員 特別支援教育を必要とするお子さんの増加に対して、私立幼稚園は、保育所も同様のところがあると思えますが、受入が限界に来ていると思う

のです。

個々の子どもたちにしっかり焦点をあてて、その育ちを保障していくということは、これからの新しい時代の教育の内容としても大切な点です。

その点に関しては、市立幼稚園があるので、その中で特別支援教育の実践をしっかり行っていただいておりますが、市立幼稚園の存在が無くなってしまったときには、行き場が無くて右往左往してしまう子どもや、保護者が出てくることも想定されます。

現状、私の幼稚園にも、先日、幼児教育支援員から相談の電話があつて、幼稚園の受入先を探しているということでした。

医師からも、年少から入園するのは難しいかもしれないし、年中でも難しいかもしれない、でも、年長の1年間は幼稚園で過ごして小学校に行くというアドバイスなどをもらったそうです。、そして、支援員とも相談して、支援員からそのような方が入園を希望するかもしれないという連絡がありました。私たちとしては受け入れてあげたい気持ちはありますが、そのようなお子さんに責任をもって幼児教育を行っていくためには、人員の問題や保育者の力量は欠かすことのできない条件で、私立幼稚園がそのような子どもたちを受け入れていく体制としては、残念ながら整っているケースが少なく、根本的に予算の部分で限界があります。

札幌市からいただいている予算内では現実には厳しい状態です。

その中で、そのようなお子さんたちの受入体制をつくっていくという点に関して、市立幼稚園が存在していても現状受け入れ先が不足している状態ですから、もし市立幼稚園がなくなったとなると、札幌市はそのようなお子さんたちを見捨てると言ってもよいくらいの決断ではないかと思っています。最後にきつい言い方ですけども、お話をしておきたいと思います。

○阿部議長 ありがとうございます。

○齋藤委員 今まで会議の中で出た意見をこのように丁寧にまとめてくださって、自分が話したこともきちんと記載されていることがとてもうれしく、とても感謝しています。

特別支援教育の充実に関して、私は最初の子育てからこの分野に随分お世話になっていたもので、10年前と今では幼児の相談体制がとても大きく変わって、在園している園で過ごしながら相談も受けられる、必要なニーズにも応えていただけるような体制が整いつつあります。

初めは、教育相談がことばの教室に直接つながっていたときには、ワンクッション置くことで、随分待たされているお母さんの印象もあって、これで本当に良いのかと思っていました。

実際に、今、ことばの教室の幼児相談につながる子は年長からが結構多くな

っていて、そうすると、ことばの教室の先生と年長とお母さんの間で信頼関係を築くには少し時間が足りないという状況が出ていると思います。

今、数字は各教室に問い合わせ出している最中なので、はっきりわかりませんが、3年前、4年前よりは確実に、年長が小学校入学前に急いでことばの教室にかかる状態が増えており、本当に効果的だと思います。

親にとっても、年長で言葉の教室とつながり、その後また幼児教育センターへ行って、小学校に入学した後にことばの教室で支援が継続するか、まなびの教室に変更するかというようなこともあり、何度も足を運ばなければいけないことがあります。

特別支援教育の充実について話すのであれば、早い段階でつなぐべき相談場所につないでいただけるような質の向上も一つお願いしたいと思います。

そして、幼児は、お昼寝から起きたらできることが増えていくというくらい成長のスピードが速いので、この時期にお母さんが子どもの発達を心配し、相談まで3か月程度待っているのは待ち期間として本当に長いと思うので、待機の時間なるべく少なくなるような工夫が欲しいと思います。

○阿部議長 ありがとうございます。

そのほかございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○阿部議長 それでは、視点4に移りたいと思います。

視点4は、幼保小の連携と家庭教育への支援ということでまとめていただきましたが、いかがでしょうか。

小学校で校長先生をされています北本委員、何か加えるところはありませんか。

○北本委員 幼保小連携は小学校と非常につながりのある部分です。

私も、幼保小の連携には6年間ぐらい関わっておりましたので、ここでいろいろな意見を述べ、話したことをきちんと資料に載せていただいて、本当にありがたいと思っております。

次年度から、小学校では、新学習指導要領が完全実施されます。

それに向け、義務規定として、スタートカリキュラムは、今後、各小学校がきちんとつくっていかなければいけません。

そのような背景がある中、市立幼稚園が中心になって、幼保小連携にきちんと取り組んでいただき、スタートカリキュラムづくりにも十分生かせるようなアドバイスなどをいただくことができれば非常にありがたいと思いますし、小学校も幼児教育の本質部分に関わることをきちんと理解した上で、スタートカリキュラム等を編成していくということをこれからも十分意識する必要があるのではないかと思います。

○阿部議長 ありがとうございます。

そのほか、幼保小連携に関して何かございますか。

○丸谷委員 北本委員からも実際に市立幼稚園の園長も経験されていたというお話もありましたが、幼児教育の社会的な理解、啓発といった面から幼保小の連携を考えると、市立幼稚園が存在することによって、小学校と幼稚園の人事交流が可能であったと思いますので、市立幼稚園と小学校の人事交流をもっとたくさんやってほしいと思います。

例えば、小学校の現場の担任を持っている先生と幼稚園の先生同士が交流し合うということです。さらに、交流だけではなくて、実際に勤めてみるという段階も含めて人事交流できればいいと思っています。今、幼児教育の重要性を一番分かってもらいたい方々は小学校の先生だと思います。

小学校の先生方に幼児教育への理解を深めていただいて、北本委員のように幼児教育の重要性を分かっていただけの方が増えていけばいくほど、子どもたちが幸せになりますし、実際、幼児期に学んできたことが小学校教育の学習の中にしっかり生かされていきます。

ただ、子ども自身が遊びの中で体得していても、学校の先生に理論的に分かっていたかかないと、つながっていかないと思っているのです。

そこは、新しい学習指導要領や、本格的に実施しております幼稚園教育要領の中でも、重要視されている点ですので、そのような観点からも、市立幼稚園が存在して、人事交流ができるという環境を今まで以上に生かしていただいて、幼児教育が社会の中で開かれて理解を進めていけるような世の中になってほしいと思う点からも必要性を感じておりますので、付け加えさせていただきます。

○阿部議長 そのほか、何かございませんか。

○中島副議長 今回、資料を作成していただき、各視点ともとてもよくまとまっていて、それぞれの委員の方々からの意見もしっかりまとめていただいたという印象を受けました。

皆さん、いろいろな視点からお話しされたことをこのようにしっかりまとめていただいたということは、幼稚園の教育の改革をする上では大事なことだと思うので、この会議に参加してきて本当に良かったなという感想を抱いています。

発信の必要性という点は、市立幼稚園の任務の一つという話をしてきましたが、今回の検討では発信の方向性も考えていく必要があると思います。

例えば、行政だったり、研究機関だったり、それから、幼稚園、保育園、認定こども園に発信するのか。さらに、保護者、社会に発信していくのか、養成

機関のこれから幼稚園や保育園の先生になっていきたいという方々に発信していくのか。それぞれの方向に合った発信の仕方、発信の内容も考え、どこに対して発信しているのかということがはっきりしなければ、あまり意味がなくなってくると思います。

実際に発信する内容がどうなのか、そして、受け手側がどうなのかというところの意識もこれからは課題になっていくと考えております。

研究という点も市立幼稚園の大きな役目ですが、そのための時間、人材、それから、対象である子どもたち、もちろん予算もあるのですが、そういったものをしっかり確保できるのかどうかといった吟味も大事かと思えます。今ある業務の中で、研究もしなさい、あれもしないということは、おそらく難しいと思えます。

その中で、どこで何を削りながら、何を任務として新しく加えていくのかという役割の精査が必要になると思います。

こういったことを考える上で、いろいろな人が関わっていますので、この人たちのゴールの共有も必要かと思えます。

どこを目指したいのか、どこに向かっていきたいのか、先ほど丸谷委員からもありましたけれども、後退であってはならないのです。前進しなければいけないのですが、では、何を前進させるのかというところを皆さんで共有し、社会で共有し、そのゴールを共有するということ大事だと思えました。

○阿部議長 ありがとうございます。

以上、議事1で視点ごとのお話をいただきました。

### **3. 市立幼稚園の在り方検討会議の総括**

○阿部議長 続いて、市立幼稚園の在り方検討会議の総括に移りたいと思います。

これまでの検討会議を振り返ってみると、第1回では、まず、幼児教育に係る国の動向や札幌市の状況、市立幼稚園の研究実践機能と課題について確認いたしました。

第2回以降の会議では、どのような議論をするのかという視点も示されたところです。

第2回目、第3回目につきましては、札幌市の今後の幼児教育や市立幼稚園の在り方を検討するに当たって、どのような方向で施策を進めていくか、そのためにはどんな体制が必要なのか、現状の市立幼稚園で不足していることは一体何なのか、現状の課題や今後の期待、時にはそれぞれ所属するお立場から意

見をいただいたところでございます。

また、保護者の視点についても加えていただいたところでございます。

ここからは、お1人ずつ、二、三分程度でお話をいただければと考えております。

順番は、相内委員から反時計回りで、よろしく申し上げます。

○相内委員 今回、まとめたものを見て、各立場の方々からの意見を整理した状態で見ることができて、大変勉強になったと思いましたが、大変素晴らしい意見だと思っております。

ただ、その一方で、これは私の意見も含めてですが、目新しい意見が出されたことはあまりないと思うのです。

常にいろいろなところで言われてきた意見なので、また何年か後に似たような検討会議が発足されたとき、同じようなことを言っているのは、この会議に何の意味もないと思います。

ここで挙げられた意見にしっかりとした実効性を与えて、効果性、それを担保するための企画力、また、中島副議長もおっしゃっていましたが、発信する力もすごく大事だと思うのです。

私は今、フリーランスで福祉の立場におり、かつて行政で児童や福祉に関わる部署にいましたが、この取組や研究の部分で知らないこともとても多かったです。

行政では、幼児教育に直接的に関わる立場ではなかったですが、間接的には割と近いところにいたにもかかわらず、届いてくる情報はほんの一部だったと思いますし、今でもそうだと思っています。

当たり前ですが、市民の税金を用いて研究していることなので、それを広く還元していくことはとても大事だと思っています。

したがって、発信力という点については、特にこれから教育委員会の皆さんが、もう既に努力されていると思いますが、今まで以上に工夫していただければなと思ったところです。

発信力というところでは、『虎の巻』の話も意見の中で出ていました。

過去に、札幌市の自立支援協議会という類似機関を活用し、効果的に周知していこうと、戦略的に連携し、取り組んだ記憶があります。

この検討会議にも、これだけのメンバーが集まっていますので、ここで出た意見、また、意見を使って具体性を持たせて実行していく上では、皆さんの力を借りることで発信力を高めてほしいです。

そして、情報は、幼児を持った家庭だけに届けばいいというものではなく、市民一人一人に届かなければいけないと思いますので、今回出た意見を踏まえて活用いただければと思います。

ありがとうございました。

○岩本委員 事務局の方々には、各会議で話された内容をこのようにまとめていただき、ありがとうございます。

私は、保護者の立場からの出席でしたが、幼児教育の現状、札幌市の現状、また、皆様それぞれの立場からの意見を聞くことができ、自身、とても勉強になりました。

これからは、無償化など、社会情勢はいろいろ変わりますが、幼稚園等の教育施設と地域と家庭との連携はどの時代になっても必要不可欠だと思います。

みんなで協力して子育てをしていきたいなと改めて思いました。

これから子どもを小学校へ進学させる立場としては、幼保小の連携についても充実していただけたらと思います。

○加藤委員 まずは、これまでの会議の中で、委員の皆様にも、毎回、市立幼稚園について真剣に議論いただきましたことに心から感謝を申し上げます。

御意見の中で、これまでの市立幼稚園の取組に対して評価いただきましたことは、大変励みになりましたし、さらなる意欲へつながりました。

また、御指摘いただきました市立幼稚園の現状とこれからの対する課題につきましては、本当に真摯に受けとめ、今後、教育委員会とともに札幌市全体の幼児教育の質の向上に向けて、これから市立幼稚園のなすべきことを果たしていくことが私たちにできることだと思っています。

この在り方検討委員会の導き出す方向性を私の後ろに控えている、ここにいないたくさんの幼稚園教諭、また、各区の市立幼稚園の園長が注目しています。

会の中でもお話ししましたが、市立幼稚園の教諭は大変に勤勉で、幼児教育に対し使命感をもって働いています。

研修会があれば、勤務が許す限り、たくさんの先生方が参加します。

支援の仕事だけではなく、研究・研修・相談業務については、自分たちは区内のほかの幼稚園、保育園、認定こども園の役に立ちたいという思いで、時間を工夫し、一生懸命、純粹に取り組んでいます。

次世代の幼児教育支援員を育成するための研修は、正規職員ほぼ全員が受講しました。

特別支援教育に関する専門性は、30年以上の経験がある教員でさえ、日々、新しい知識や技能を習得しようと、研修してきた内容を参加していない教員に伝え園内で共有しています。

このように、札幌市の幼児教育という高い使命感をもち、毎日、実際に保育をしながら、その実践研究の成果を発信しようとする市立幼稚園の教員は、貴重な宝ではないかと私は感じております。

今後、どのような方向に転換していっても、この力のある教員がモチベーシ

ョンを下げることなく、札幌市の幼児教育を推進する私立幼稚園の皆さん、保育所の皆さん、認定こども園の皆さん、そして、接続についてともに進める小学校の皆様と一緒に、新しい時代に即した務めを果たすことができるように、お力添えをいただければと思います。

○川又委員 この会議に参加させていただき、ありがとうございました。

今まで知らなかったことをたくさん知ることができましたし、それぞれの立場からいろいろな意見を出し合って、幼児期の全ての子どもたちにとって、また、保護者が過ごしやすい環境になるように話し合っただけで検討することはとても大切だと感じました。

これからは、今よりもさらに共働きの家庭も増え、人と人との関わりも今まで以上に薄くなっていく時代になっていくかもしれませんが、せめて幼児期には、たくさんの人や物に触れ合っただけしてほしいし、お母さんはもちろん、家族ともたくさん触れ合っただけしてほしいと思っています。

家庭と幼稚園や保育園などの教育の場でお互いにできないものを補いながら連携して、子どもたちが幸せでいられる環境を、そして、保護者が楽しく育児のできる環境を築いていけたらなと思っています。

今まで、ありがとうございました。

○古清水委員 私は、この中で、幼児教育のことを一番知らない人間かもしれませんが、かっこう幼稚園でボランティアとして活動している中で、幼児教育をかなり知ってしまったのではと思っています。

大変さということに対しては、教員の忙しさは、加藤委員も言っていました、非常に一生懸命努力していて、本当に頭が下がる思いです。

特別支援教育については、市立にしかできないところがあると思いますし、幼児教育から切り離せないと思うのです。

支援を必要とする子どもを見ていると、日々、変わっていく感じを受けますし、幼児時代にきちんと指導、支援をすると成長していくのではないかと感じます。

そういう意味においては、今後も、是非、充実を図っていただきたいと思っています。

先ほど、いろいろなお話がありましたが、必要としている子ども全てが支援を受けられるようにしていただきたいです。

また、特別な支援を必要とする幼児はその他の幼児との集団の中で、初めて育っていくのではないかと感じます。

私も、なるべく充実した幼稚園になるように努力していきたいと思っています。

これまで4回にわたり、いろいろとありがとうございました。

○北本委員 幼児教育を含めて、小学校、また、もっと先を見て、教育を統合的、連続的に捉えるといった点から、お話しさせていただきたいと思います。

なぜかという、市立幼稚園の在り方そのものがそういうことにつながっているのではないかと感じたからです。

平成30年度に完全実施になった幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で、御存じのように、幼児教育で育てる力や方向性が明らかになりました。

それを表しているのが、知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう力・人間性などの三つの柱で、相互に循環的に育成される資質・能力ということです。

そして、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿です。

従来の幼稚園教育要領をはじめとした幼児教育の中でも、環境を通しての保育、主体的な遊びといったプロセスや、5領域で示された遊びの内容は語られてきておりました。

それに対して、今回の改定では、子どもの学びにおいて何が育つかということが資質・能力によって明らかにされたと思っています。

資質・能力の三つの柱を具体的な保育内容の中に組み込んだものとして示しているのが、幼児期の終わりころまでに育ってほしい10の姿ではないかと押さえています。

これは、5歳児後半に特に伸びていく活動内容を10個に表したもので、単にその成果ではありません。

様々な活動を通して表れる具体的な姿を示しているのです。

5領域の内容の取り扱いに示されているものを再整理して10個にまとめたということで、私は育ちの方向性と捉えています。

今後は、どのような個性的な教育をしようと、その根底にはこの10の姿、目指すべき姿勢があり、小学校でもしっかりと押さえておかなければいけないのではないかと、私はいろいろな場で申し上げております。

10の姿は、幼児教育の出口は、小学校教育の入口になるものと考えています。

そのことをしっかりと踏まえた上で、学校は幼児をしっかりと受け入れていくということが必要だと思っています。

今まで、教育は、小学校に入ってからのもと言われてきたものに対して、大きな意識改革を迫られているような気がします。

幼児教育で育つ姿を生かして教育を行っていくことが、小学校に求められていて、よりよくつながっていくためにも、各幼児教育施設側も、どのような子

を育てるのかということは今一度自覚してもらって、責任を自覚することが大切ではないかと思っております。

そういったことを、市立幼稚園の在り方検討会議の中で改めて感じさせていただきましたし、それに向かって、現在も邁進している市立幼稚園のひたむきな姿を思い出しております。

ありがとうございました。

○齋藤委員 ことばを育てる親の会の齋藤です。私がことばを育てる親の会の事務局に入ったきっかけは、幼児相談でうちの子どもがお世話になったことと、当時は各小学校、例えば、中央小学校や琴似小学校、南月寒小学校では多くの子どもの相談を2人から3人の先生が余力の範囲で一手に請け負っている状況があり、こんなに大変の中でやっていたのか、でも、先生たちはとても丁寧に関わろうとしてくださっているという状況を見て、親の会の活動を始めようと思いました。

幼児の相談には並々ならぬ意気込みがあったので、この席に座れて本当に光栄に思っています。

親の会でお母さんたちの相談を受けていると、あまり良い話は聞けなくて、先生がこうだった、相談したときにこういう対応だったという話ばかりになっていたので、それはこう変えなければいけないね、こうしてほしいねということはよくありました。

ただ、この会議の席について、全国的にも市立幼稚園が中心となって幼児の就学に関わる相談を行っている体制は誇らしいですし、幼稚園や保育園の園長先生から幼児の相談体制が変わったことの効果も知ることができて、この会議に出られて、本当によかったと思いました。

これから、他の保護者の相談を受けるときには、市立幼稚園の役割や立ち位置、どんな思いで先生たちが関わってくれるかも併せて伝え、こんなにすごいのと伝えたいと思います。

また、相談体制や幼保小連携というのはとても大切だと思うのです。

これが滞ったときに一番犠牲になるのは、ほかの誰でもなく、その子自身になります。

気付いてもらえない、理解してもらえないとなって、問題行動も起こってくるのかなと思っております。

特別な教育的ニーズがある子に合わせていくと、ほかのどんな子にも分かりやすい体制が整うと思うので、インクルーシブを目指して、社会が進んでほしいと思っております。

特に、幼児期は、お母さんたちもお父さんたちも、このまま何とかなるさと思える方もいらっしゃるのですが、先が見えなくて止まってしまう親御さんも

多いです。

その中で、先生方に丁寧に関わってもらおうということは、その先にずっと続く教育機関との関わりへの信頼関係の第一歩となると思うので、その面でも、これからも丁寧に関わって行ってほしいと思います。

よろしく申し上げます。

○丸谷委員 私は、私立幼稚園連合会の副会長という立場でこの会議に出席させていただいており、その立場で最後にお話をさせていただきます。

私立というのは、それぞれ園に経営が任されておりますので、その意見も多様で、この会議の第1回目するときにもお話ししましたが、市立幼稚園の在り方についての意見を私立幼稚園連合会の加盟園の意見を収集し、まとめた上で会議に臨んで発言をしていますが、正直、全てを伝え切ることができていません。

私自身の立場と、時には、個人的な考えも含めての話にどうしてもなってしまうことをお許しいただきながら、最後にお話しさせていただければと思います。

まず、今回の市立幼稚園の在り方の検討会議の議論の中心は、言うまでもなく、子どもたちのためだと思います。

札幌市における幼児期の子どもたちのためにこの議論があつて、もう少し言えば、その子の保護者、家族、幼児期の子どもたちを支えている先生方、保育者、そこを議論の中心として4回の検討が行われてきたとっております。

その点を踏まえて言えば、一番は子どものためという視点でお話をしていかなければいけない会議であつて、最後に私もそこを中心にお話をしたいと思っています。

まず、私立幼稚園から見て、どうして市立幼稚園が必要だと言えるのかという点をもう一度お話ししたいと思います。

実は、正直なところ、経営の基盤があつての私立幼稚園としては、それぞれの園が良い意味でのライバル関係にあり、園児が集まらなると、経営責任として廃園してしまうという状況も頭に入れながら幼児教育を行っているのが現状です。

その点から考えたとき、市立幼稚園との共存というのは、難しい部分があるのが正直なところだと思います。

ただ、今の時代、これからの時代、子どもを議論の中心に考えたときに、やはり市立幼稚園は必要ということで、再三、話してきました。

その理由は、幼児教育の実践の質の向上を、ある意味での公平性がある市立幼稚園だからこそ行うことができ、そして、社会に発信できる信用性をもっているからであり、この点については、私立幼稚園だけではなかなか難しいのが

現状です。

もちろん私の園も含めてという意味で、私立幼稚園として教育経営のことを考えたとき、幼児教育の実践の質の向上に努めていきたいと思い、子ども中心の保育を行い、結果として幾ら子どもがこの幼稚園に行きたいと言っても、保護者がだめと言ったら保護者は選んでくれませんので、そういった際に、過剰に保護者に迎合したり、サービスに偏ってしまったりという点に関して、真の幼児教育の質についての研究実践を重ねることが難しい部分も私立の立場としてはあると思います。

先生方は、その中でもできる限りのことをして、子どもたちのために、よりよい育ちを保障していくために、毎日、一生懸命向き合っています。

人員が不足していれば、研究の質も落ちてしまいますが、市立幼稚園ではある一定以上の人員が保障されているため、実践研究を行うことができる場であり、公平性を踏まえながら、質の議論を最善に考えて行える実践の場だと思えます。

市立幼稚園が中心となって、市立幼稚園と協力して社会に対して幼児教育の重要性を発信していかなければならないと思います。

正直なところ、市立幼稚園の運営に関しては、市の単費で行われておりますので、市が必要か、必要ではないかという判断をしたいと思います。

ただ、先ほどから申し上げているように、子どもを中心に幼児教育の質をよくしたいと考えた時に、それが可能な市立幼稚園という機能を後退させるのではなく、よりよい在り方を模索し、私立幼稚園、あるいは保育所、認定こども園の子どもたちにも良い影響が出るようなリーダーシップをとっていただきたい。そのような可能性があるのは、市立幼稚園ではないかと思っております。

そういった点からも、是非、今後もそのような役割を全うしていただけたらありがたいと思いますし、そこを支える幼児教育センターという束ねる機能があることも札幌市の強みだと思えます。

市立幼稚園だけではなくて、教育委員会の中にある幼児教育センターが全ての幼児教育の質の向上を束ねているということも考えながら、在り方検討会議の最終的な議論をしていただけたらなと思っております。

私からは、そのようなお願いも含めたお話とさせていただきます。

ありがとうございました。

○水岡委員 私は、私立保育園連盟の代表として出席しておりますが、今までは保育園と幼稚園では文科省と厚労省で管轄が違うということで、一緒に語られることがほとんどなかったように思います。この会議に保育園の立場から参加できて、よかったと思っております。

私自身も、過去に公立幼稚園に勤め、公開保育を行ったり、研修を行ったり

する中で、公立幼稚園の大切さとして、こういうところは民間の保育園ではできないと、感じていました。

事実、保育園にいて、幼稚園と交流することはなかなかできませんでしたが、時代のニーズが変わり、今、幼保小連携の中で、幼稚園と保育園、認定こども園さんが共に一堂に会してお話をするのができ、そして、札幌市の子どもたちの教育・保育について、共に語り合える場ができたのは、本当に素晴らしいことだと思っています。

先ほど丸谷委員がお話ししたように、せっかくできた公立幼稚園をどう生かしていくのかということ、この検討会議で出た皆様の御意見を踏まえて札幌市が十分に考えていただけたらと思います。

そして、私どもの連盟も、もう一步踏み出して、今回、保育士のキャリアアップ研修をしたときにも、事務局の松井先生に講演していただいたように、私立幼稚園、公立幼稚園と共に、その中核となる幼児教育センターをもっと活用していきたいと思っています。

幼保小連携の在り方について、また、保育士の質のアップのためにということで、いろいろな研修を通してもっともっと深めていく必要があると私どもも改めて考えましたので、これから私も私立保育園連盟の中でもっと発信していきたいと思っています。

○三井委員 皆様おっしゃっていたように、四つの視点を拝見させていただいて、本当によくまとめていただき、改めて市立幼稚園の役割の重要性を感じるとともに、私立の施設に対してもお支えいただいていることに感謝する次第です。

今までの問題に加えて、これから長時間保育を受ける子どもたちが増えるであろう点や、ますます支援の必要な子が増えてきている現状、スムーズな就学へ向けての幼保小連携と、本当にたくさんの課題はあります。今後、さらに一人一人の子どもたちを丁寧に見て教育・保育をする必要があるのではないかと思いますし、インクルーシブ教育の重要性も感じています。

市立幼稚園におかれましては、幼児教育支援員の先生方に、研究実践園として大きな役割を担っていただいていると思います。

余談ですが、市立幼稚園の計画指導案はとてもよくまとまっていて、とても勉強になりますし、私の運営する園からも、公開保育の際には必ず1人は派遣していますが、やはり、研究実践は、丸谷委員も言っていたように、私立の園ではなかなか難しい現状にあります。

先生たちも、日々研修しておりますが、特に支援の必要な子どもたちに関して専門性や保護者相談については御指導いただき、お世話になっております。

今後も、研究実践園として、札幌市の幼児教育をリードしていただきながら、

共に課題を共有し、札幌市の子どもたちが大事な幼児期に本当に健やかに過ごせるように、連携させていただければと思います。

○中島副議長 4回にわたる皆様の議論の中に入れていただき、大変勉強になりました。

皆様が、いろいろな視点から、いろいろなことを考えていると感じ、この会に参加させていただいて、とてもよかったなと考えております。

私は、学術的などころから大学の教員という立場で参加させていただきました。

先日も、幼児系、医学系の学会に参加したのですが、学術レベルで言うと、幼児教育もしくは保育に関して重要ではないといったものは一つも出てきません。

先日も、1日中、何百もの発表がありましたが、全てにおいて幼児教育がこれだけ重要だという前提で、もしくは、それを証明するための研究となっています。

これだけ重要だということがいかに認識されているのか、社会と共有化されているのかというところも考える必要があると思います。

そうすれば、社会の理解も得られますし、重要性ということをしっかり押さえながら、どのように改革していこうかという話にもつながっていくと考えています。

今回は、市立幼稚園の在り方検討会議ですが、タイトルの中に隠されていることを皆さんももちろん押さえていると思いますが、誰のためというところでは。

何名かの方からコメントがありましたけれども、これは、あくまで子どものためにであって、誰のためかということを常に考えながら改革をしていかなければいけないと思います。

そして、子どものことを考えるときには、主語が子どもでなければだめであると思います。

子どもがどうなって、子どもが何を育み、子どもがその先にどうなっていくか、将来をどうつくっていくかというところの主語を子どもとして考えると、その後、我々が考えていくことは絞られていくと感じていました。

そして、それを続けることで、札幌に暮らす皆様が考えて、札幌らしい教育というものが作られていくのかなと感じています。

どうもありがとうございました。

○阿部議長 皆様から貴重な御意見いただきまして、ありがとうございました。

それでは次に、事務局から、これらを受けて、今後の策定する方針等について説明していただきたいと思います。

○事務局（野切幼児教育センター担当課長） このたびは、4回という限られた回数ではございましたが、委員の皆様から、本当にそれぞれのお立場に立った、御経験を踏まえた貴重な御意見をいただきまして、心から感謝を申し上げます。

本当にどうもありがとうございました。

今後の方針の策定の進め方につきまして、現時点の予定でございますが、説明させていただきます。

今後は、今、事務局がお示ししております四つの視点などについて、皆様からいただきました多様な御意見を参考としながら、方針としてまとめてまいります。

教育委員会としてまとめました方針案については、来年の1月頃を目途に、およそ1か月間程度の期間、市民に対するパブリックコメントを行い、市民の皆様から広く御意見等をいただくことを予定しております。

方針の案につきましては、委員の皆様にも送付させていただきたいと思っておりますので、内容をご覧いただきまして、改めて忌憚のない御意見等を頂戴できればと考えております。

パブリックコメント終了後は、市民の皆様からいただきました御意見を踏まえまして必要な修正を加えるなどして、最終的には来年の3月を目途に策定、公表することを想定しております。

策定までの動きにつきましては、以上でございます。

○阿部議長 ありがとうございます。

今、事務局から今後についての説明がございました。

私たちの意見を参考にしながら今後の方針を決め、1月にはパブリックコメントを行う予定ということです。

皆様には、大変貴重な意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

私も不慣れで、うまくいかないことも幾つかありましたけれども、本当にどうもありがとうございました。

今、私は、頭の中にこういうものを置いています。

「子ども時代は一生の宝物」です。

私自身が野山を駆け回ったりしたこともそうですし、子どもの頃の体験が、ずっと一生を支えたり、いろいろな問題を解決するのに大事な力を養っていると考えています。私たちは、保育や教育などに直接関わっているということを考えると、真摯にしなければならないこと、もっと進めていかなければいけないことが明瞭になってくると思います。

できることをいま一歩進めるためにはどうしたらいいかということです。

昔は、幼稚園も保育園も、家庭教育、学校教育の役割がそれぞれ明確にあったのですが、今の世の中、だんだんとボーダーレス化して、なくなってきています。

時代はどんどん進んでいきますので、この後も変わっていくだろうと思います。

それでも、変わらないのは、先生と私たち、幼稚園と私たちというお互いの信頼関係です。

信頼関係をどうやって構築するのか、あの先生に話を聞いたら、こういったことがちゃんと返ってくるのか、困ったと思ったらどこに行けばいいよとか、そういったものがちゃんとサポートされているシステムがどう構築されていくのかということがこれから大事にされるべきだろうと思っております。

ただ、ニーズはたくさんあるので、その需要だけではだめではないかと思っています。

長時間の保育もそうですが、いろいろな意味で、いま一步、逆にニーズをつかみつつ新たな方針を、連携をつくっていかなければならないのかなと思っています。

今回は、市立幼稚園の在り方ということで、こうしてほしい、ああしてほしいという御意見がいっぱいあったと思うのですが、でき得ることは、市立幼稚園も限界があるし、こういうことでは人員の確保も必要でしょうし、新しい先生方も必要で、その研修、研究を回していかないと次へのステップになっていかないということもあるでしょう。

齋藤委員からありましたように、相談に行きたいけれども、待ち時間が多くてなかなかできない、では、親の視点になったときにどうしたらいいのだとなったときに、市立幼稚園だけがそれを担うというのは難しくなります。

そうすると、逆に私立幼稚園の協力を得なければならないということもあるでしょう。

10園ありますが、市立幼稚園は利便性の高いところに、すぐに行きやすいところはありませんし、幼稚園バスがあるわけではないので、本当に小さい子を抱えながら連れて行くとなっても、お母さん方は実際にとっても大変です。

そのときに、どういった場所で、どんな支援ができるのかといったら、場所の提供ということも含めて、私立幼稚園も含めて検討していかなければならないことがあるでしょう。

そのように、少しずつ話し合いを進めながら、何ができるのか、こうしたらどうなるのかということで検討を加えながらいかなければならないだろうと思います。

そういった具体的な方策を一步進めるために、委員の皆様の貴重な意見があ

りましたので、これを糧として次の具体的な方針をつくっていただきたいと思います  
っております。

ありがとうございました。

○事務局（野切幼児教育センター担当課長） 阿部議長、ありがとうございました。

#### 4. 児童生徒担当部長挨拶

○事務局（野切幼児教育センター担当課長） 最後に、次第の4番になりますが、札幌市教育委員会を代表しまして、長谷川児童生徒担当部長から御挨拶をさせていただきます。

○長谷川児童生徒担当部長 市立幼稚園の在り方検討会議の終わりに当たりまして、一言、御挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、今年の5月から、本日を含めまして4回にわたってお集まりいただき、それぞれのお立場から熱心に御議論を重ねていただきましたことに、改めて深く感謝を申し上げます。

本日は、これまでの御意見の振り返りと本検討会議の総括ということで皆様から御意見をいただきましたが、札幌市全体の幼児教育に関する将来の方向性について、大変貴重な御意見をいただいたものと受け止めております。

振り返りの中にもありましたが、時代に合わせた幼児教育をどのように展開していくべきか、幼稚園と保育所との連携や特別支援教育に関すること、また、小学校との連携、家庭や地域との連携の在り方、さらには市立幼稚園の職員の採用など、現代の幼児教育や市立幼稚園の課題に対しまして、非常に幅広い観点から御議論いただきましたことは、今後の市立幼稚園の在り方を検討する会議として大変価値のあるものになったと実感しております。

今後は、札幌市教育委員会といたしまして、皆様からいただいた御意見を踏まえながら、今後10年間の市立幼稚園の在り方、そして、札幌市の幼児教育の方針づくりに全力を傾けてまいりたいと考えているところでございます。

本日もちまして市立幼稚園の在り方検討会議は終了となりますが、委員の皆様には改めましてお礼を申し上げたいと思っております。

中でも、議長と副議長を引き受けていただきました阿部委員と中島委員におかれましては、様々な立場から出された御意見をまとめていただきまして、本当にありがとうございました。

最後となりますが、本会議の委員の皆様は、これまでも何らかの形で子どもや教育に関わっていただいておりますが、今後とも札幌市の幼児教育や教育行政に御協力いただきますよう重ねてお願いを申し上げ、また、委員の皆様のますますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、簡単ではございますが、お礼

の挨拶とさせていただきます。

本日は、本当にどうもありがとうございました。

## 5. 閉 会

○事務局（野切幼児教育センター担当課長） それでは、以上をもちまして、全4回にわたりました市立幼稚園の在り方検討会議を終了させていただきます。

本当にどうもありがとうございました。

以 上